



朝熊ヶ岳の名所・旧跡

伊勢神宮と朝熊岳金剛證寺

朝熊岳金剛證寺は、今から1500年ほど前、晩上人が草創。天長2年(825)弘法大師が真言宗の道場を開き、その後仏地神師が再興。現在は臨済宗南禅寺派のお寺として信仰を集める。伊勢神宮の鬼門を守る寺として「伊勢神宮の奥の院」とも呼ばれ、伊勢信仰・おかげ参りと結びつき伊勢首領にも「お伊勢参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」と唄われるほど伊勢神宮とともに盛んに参詣されてきました。

岳参りと奥之院

伊勢志摩地方では「亡くなった人の魂は朝熊山に昇る」と考えられ、葬儀の後は宗派を問わず奥之院を訪れ、卒塔婆を建て供養する習わしがあり、これを岳参りと呼びます。極楽門を越え長い卒塔婆群の先にあるのが、延命子安地藏菩薩を本尊とする奥之院。ここにある「茶屋」は富士見台として名高く、「海を呑む 茶の子の餅か 不二の雪」という一休の句碑が建っています。毎年開山忌(6/27~29)に数万人の人々が参詣しますが、この期間にのみ茶屋にて販売される句由来の名物餅もあります。

朝熊山経塚群

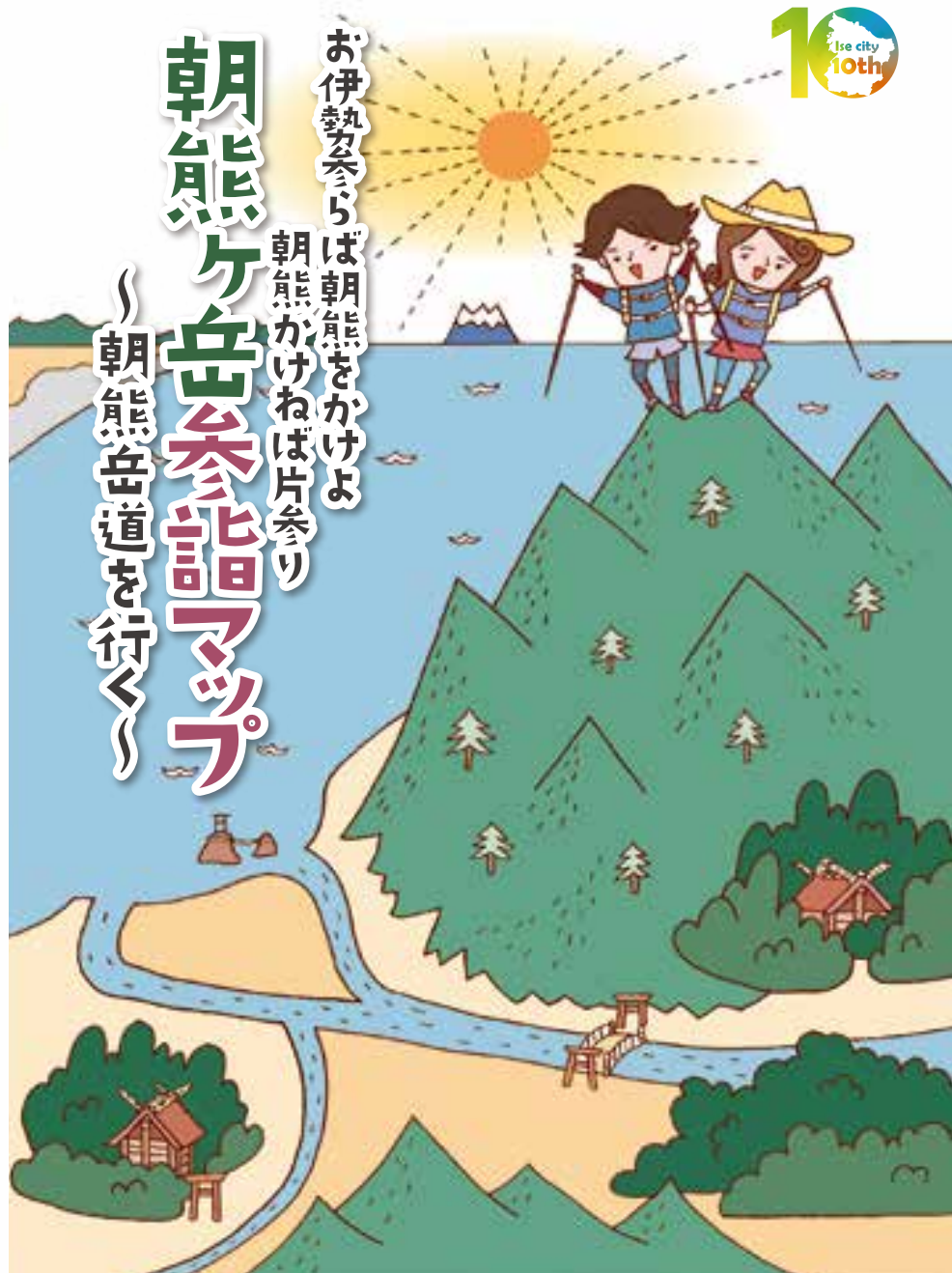
経塚とは仏教の経典を写して陶器などの筒に入れて土中に納めた遺跡のこと。平安時代末期、末法思想により流行った風習で、教えの根本である経典だけは後世に伝えたいと霊地に埋めたものです。昭和34年9月伊勢湾台風による倒木で発見された多数の出土品は、保存状態も良く、神宮の神官の写経なども見つかったことから神仏習合を示す貴重な資料として国宝に指定されました。

ケーブルカー跡と東風屋旅館跡

朝熊岳道の中腹にある通称「十町橋」は吹き渡る風が気持ちいい絶景ポイント。大正時代、この下には当時東洋一を誇るケーブルカーが通っていました。しかし戦時下の昭和19年に営業を停止し、レールは軍需品として供出されました。また、二十二町の朝熊峠見晴台にあった100畳敷きの大広間を有する東風屋(とうふうや)旅館は、ケーブルカー廃止後茶店として営業していましたが、昭和39年火災により焼失し廃業。時代の変遷を感じながら、昔も今も変わらない景色の美しさに心癒やされる二十二町の朝熊峠見晴台は、調査隊のココ見てポイントにも選ばれています。

伊勢と熊野二つの聖地を結ぶ熊野古道伊勢路

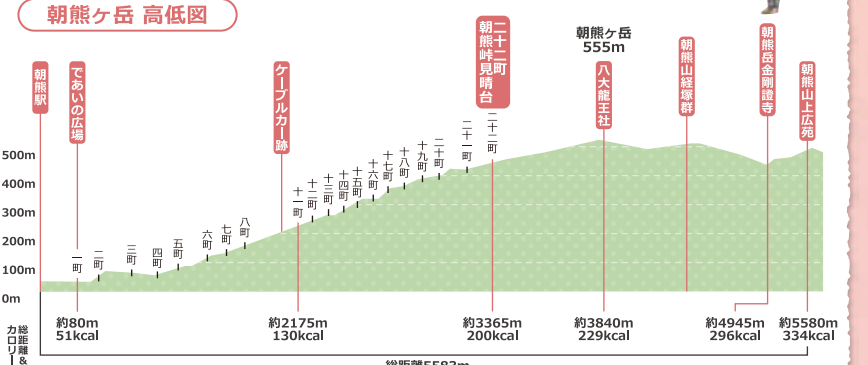
江戸時代より、伊勢参詣を済ませた人々は、巡礼姿に身を整えて、心新たに熊野を目指したと言われてます。熊野古道伊勢路は、伊勢神宮と熊野三山を結び、古歌にも「伊勢八七度、熊野八三度」と詠まれる信心の路。熊野古道はユネスコの世界遺産にも登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部で、日本のみならず世界中から注目を集めるようになりました。



登山のイロハ 朝熊ヶ岳参詣をお楽しみいただくために

近畿自然歩道の中にある朝熊岳道は、朝熊山の参詣道の1つで「町石」と「お地藏さん」が道案内をししてくれます。

- 服装・装備について**
長袖・長ズボン、帽子、リュック(両手が空くように)、しつかりとした靴、ストック(あると便利)
- 朝熊ヶ岳の歩き方**
初心者向けの山ではありますが、こぶし大の石がごろごろしたポイントや小石で滑りやすいポイントもあります。イラストマップを見ながら体調と技術に合わせて道を選びましょう。
- トイレと自動販売機について**
登山入り口の「であいの広場」、山頂の「八大龍王社」、「奥之院」、「朝熊山上広苑」に向かう道沿い、「朝熊山上広苑」にトイレがあります。自動販売機は、「奥之院の茶屋」、「朝熊山上広苑」にあります。
- 登山ペースについて**
登山入り口から朝熊山上広苑までは、初心者の定約2時間程度の道のりです。ただし、記載されている時間とカロリーは、登山初心者で平均身長的女性を想定して参考までに記載しておりますので、自分自身のペースで朝熊ヶ岳参詣をお楽しみください。※時間・消費カロリーを保證するものではありませんので、あしからずご了承ください。
- まむし、あぶ、はち、ひる等にもご注意ください!**
- マナーを守って楽しい登山にするために**
登山中出会った人々には積極的に挨拶をして、気持ちのよい交流を心がけましょう。ゴミは各自持ち帰るのが基本。自然の草花は持ち帰らずに、そこにある美しさを楽しんでください。また火災の原因になりますので、タバコのポイ捨ては厳禁です。



朝熊ヶ岳登山の準備に! マッププラスα情報をPDFでご覧いただけます。
朝熊ヶ岳登山情報 (http://www.ise-kanko.jp/download/asamatozan/p01.pdf)